

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名 : ラスピア・グリーススプレー  
製品コード : 08171  
会社名 : 株式会社MORESCO  
住所 : 神戸市中央区港島南町5丁目5-3  
カスタマーセンター(問合せ先) : TEL:06-6262-3385 FAX:06-6262-3327  
Eメール:customercenter@moresco.co.jp  
緊急連絡先 : 合成潤滑油営業部 営業課  
TEL:06-6262-3310 FAX:06-6262-3327  
合成潤滑油営業部 東京営業課  
TEL:03-5537-7055 FAX:03-5537-7059  
潤滑油製造部 品質管理課  
TEL:0791-42-2100 FAX:0791-43-3179  
推奨用途及び使用上の制限 : 耐水性グリース

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	エアゾール	区分1
健康に対する有害性	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分4
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分3
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2B
	生殖細胞変異原性	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1
環境に対する有害性	GHS分類基準に該当しない	

#### ラベル要素

絵表示またはシンボル



#### 注意喚起語

#### 危険有害性情報

: 危険  
: 極めて可燃性/引火性の高いエアゾール  
: 高压容器: 熱すると破裂のおそれ  
: 吸入すると有害  
: 軽度の皮膚刺激  
: 眼刺激  
: 遺伝性疾患のおそれの疑い  
: 臓器(肺)の障害のおそれ  
: 長期にわたる、または反復ばく露による臓器(肺、皮膚)の障害  
: 【安全対策】  
: 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。  
: 一禁煙。  
: 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。  
: 加圧容器: 使用後も含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

#### 注意書き

使用前に取扱説明書を入手すること。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。  
 取り扱い後はよく手を洗うこと。  
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。

【保管】

日光から遮断し、50℃を超える温度にばく露しないこと。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	:	混合物	
化学名又は一般名	:	グリース混合液	
		液化石油ガス(プロパン、n-ブタン、i-ブタン)	
化学式	:	特定できない	
成分及び含有量	:	グリース混合液	60～75%
		プロパン	10～20%
		n-ブタン	5～15%
		i-ブタン	5～8%

危険有害成分

化学物質排出管理促進法(PRTR法)	:	非該当	
労働安全衛生法	:	政令番号168 鉱油	20～35%
(第57条 表示対象物 及び		政令番号330 石油ナフサ	20～35%
第57条の2 通知対象物)		政令番号432 ノナン	5%未満
		政令番号483 ブタン	10～23%

4. 応急措置

吸入した場合 : 新鮮な空気へ移し、水でよく口の中をうがいさせる。身体を毛布などで覆い、保温して安静に保ち、直ちに医師に連絡する、蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、新鮮な空気の中で安静にし、医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 : 水と石鹼で付着した部分を洗う。  
 ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水または温水で洗い流す。

- 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で最低15分間、目を洗浄し、コンタクトレンズを着用している場合は外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないで、直ちに医師に連絡すること。  
口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗う。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。  
眼に入ると炎症を起こす可能性がある。  
皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。  
ミストを吸入すると気分が悪くなる可能性がある。

## 5. 火災時の措置

- 消火剤 : 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 消火に棒状の水を用いてはならない。
- 特有の危険有害性 : 加熱により容器が爆発するおそれがある。  
火災によって刺激性、腐食性または毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を絶つ。  
初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。  
大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。注水は、火災を拡大し危険な場合がある。  
周囲の設備などに散水して冷却する。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。  
火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には噴霧水等をかけて冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業は保護メガネ、保護衣、状況によっては呼吸保護具を着用して、風上から行う。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。  
漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。  
漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
密閉された場所に入る前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 土壌の汚染、水質汚濁に繋がるので、可能な限り回収する。  
河川・下水道などに排出されないよう注意する。  
環境中に放出してはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 周囲の着火源を取り除く。  
火花を発生しない工具を使用する。  
少量の場合: 土砂、ウエス等で吸着させて空容器に回収し、更にウエス等で完全に拭き取る。  
大量の場合: 盛土で囲って拡散防止をはかってから、掃き集め空容器に回収後安全な場所にて処理する。処理後は大量の水で洗いながす。この場合、濃厚排水が河川等の公共水路に流入しない様に注意する。

## 二次災害の防止策

- 海上の場合:オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸収マットなどで吸い取る。薬剤を用いる場合は国土交通省令・環境省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
- : すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
火花を発生しない工具を使用する。  
関係箇所に通報し応援を求める。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

- : 静電気対策のため、装置等は接地し、電機機器類は防爆型(安全増型)を使用する。適切な保護具を着けて作業すること。作業衣、靴等も導電性の物を用いる。  
石油製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため、換気および火気などへの注意が必要である。  
常温で取り扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意すること。  
皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。  
容器から取り出すときはポンプなどを使用すること。  
細管を用いて口で吸い上げてはならない。  
容器を溶接・加熱・穴あけまたは切断しないこと。爆発を伴って残留物が発火することがある。

#### 局所排気装置・全体換気

#### 接触回避

#### 安全取り扱い注意事項

- : 8. ばく露防止及び保護措置を参照。  
: 10. 安定性及び反応性を参照。  
: 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。  
炎、火花または高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。  
機械設備などを修理又は加工する場合は安全な場所において完全に除去してから行う。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取り扱いをしてはならない。  
使用前に取扱説明書入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。  
裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。  
加圧容器: 使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。  
使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。  
温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。  
食べない。  
子供の手の届かない所に置く。  
環境への放出を避けること。  
: 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。  
作業中は飲食、喫煙はしない。  
取扱い後は、手洗い、洗眼、うがい等を十分に行う、特に飲食、喫煙前には石鹼で手を洗うこと。

#### 衛生対策

#### 保管

## 安全な保管条件

### 技術的対策

- : 熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。  
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。  
火気、熱源から遠ざけて保管する。  
40℃以上になる所には置かないこと。

### 混触禁止物質

#### 保管条件

- : 10. 安定性及び反応性を参照。
- : 換気の良い場所に直射日光を避け保管する。  
缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがあるため、水周り等の湿気の高い所での保管は避けること。  
40℃以上になる所には置かないこと。  
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

### 安全な容器包装材料

- : 高圧ガス保安法等の法令で規定された容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

- : 規定なし。  
(作業環境評価基準:平成21年厚生労働省告示第194/195号)

### 許容濃度(ばく露限界、生物学的ばく露指標)

#### 日本産衛学会(2010年度版)

- : 3mg/m<sup>3</sup>(鉱油ミスト)<sup>1)</sup> 200ppm (ノナン)<sup>1)</sup>  
1000ppm (プロパン・n-ブタン・i-ブタン)<sup>1)</sup>

#### ACGIH(2010年度版)

- : TWA 5mg/m<sup>3</sup>(鉱油ミスト)<sup>2)</sup> 200ppm (ノナン)<sup>2)</sup>  
1800ppm (プロパン・n-ブタン・i-ブタン)<sup>2)</sup>

### 設備対策

- : ミストおよび蒸気が発生する場合は発生源の密閉化、または排気装置を設ける。取扱場所近辺に、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

### 保護具

#### 呼吸用保護具

- : 通常必要がないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。

#### 手の保護具

- : 長期間または繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。

#### 眼の保護具

- : 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。

#### 皮膚及び身体の保護具

- : 長時間にわたり取扱う場合または濡れる場合には耐油性の長袖作業服等を着用する。濡れた衣服は脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 物理的状態

#### 形状

- |            | 内容液                   | 噴射剤                          |
|------------|-----------------------|------------------------------|
| 形状         | : 液体                  | 大気圧下ガス状、圧力容器内液状              |
| 色          | : 淡褐色                 | 無色透明                         |
| 臭い         | : 微臭                  | 無臭                           |
| pH         | : 該当しない               | 該当しない                        |
| 融点・凝固点     | : 該当しない               | -187.7~-138.4℃               |
| 沸点         | : 163~190℃            | -42.1~-0.5℃                  |
| 引火点        | : 40℃以上(TCC)          | -104.4~-73.8℃                |
| 発火点        | : データなし               | 405~550℃                     |
| 爆発範囲(爆発限界) | : 0.6~7.0vol%(基油の推定値) | 1.8~9.5vol%                  |
| 蒸気圧        | : データなし               | 0.45MPa(20℃)                 |
| 蒸気密度(空気=1) | : データなし               | 1.895~2.538Kg/m <sup>3</sup> |
| 比重(密度)     | : 約0.89 (20℃)         | 0.541(20℃)                   |
| 溶解度        | : 水に難溶                | 水に微溶                         |

#### 色



#### 臭い



#### pH



#### 融点・凝固点



#### 沸点



#### 引火点



#### 発火点



#### 爆発範囲(爆発限界)



#### 蒸気圧



#### 蒸気密度(空気=1)



#### 比重(密度)



#### 溶解度

n-オクタノール／水分配係数	: データなし	データなし
自然発火温度	: データなし	データなし
分解温度	: データなし	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	: 40℃以上になると破裂の恐れがある。 常用温度で缶内圧は約0.50MPa。
危険有害反応可能性	: 高圧ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険性がある。 可燃性の液化ガスであり、空気と爆発性混合ガスを形成し易い。 換気の際には、周囲に着火源の無いことを確認すること。
避けるべき条件	: 高温多湿な場所での保管及び火気(火炎、スパーク等着火源)の近くでの使用。
混触危険物質	: 強酸化剤との接触を避ける。
危険有害な分解生成物	: 酸化炭素類、微量の不完全燃焼した炭素化合物。

## 11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: (製品のデータ) 急性毒性(経口)に区分する情報はない。 (成分のデータ: グリス混合液) ラットLD <sub>50</sub> 5000mg/kgに基づき区分外。
経皮	: (製品のデータ) 急性毒性(経皮)に区分する情報はない。 (成分のデータ: グリス混合液) ラットLD <sub>50</sub> 5000mg/kgに基づき区分外。
吸入(ガス)	: (製品のデータ) 急性毒性(吸入(ガス))に区分する情報はない。 (成分のデータ: プロパン) モルモットLC <sub>50</sub> (2時間) > 55000ppm。 モルモットLC <sub>50</sub> (4時間) > 38890ppm。(ACGIH <sup>th</sup> , 2001)
吸入(蒸気)	: (製品のデータ) 急性毒性(吸入(蒸気))に区分する情報はない。
吸入(ミスト)	: (製品のデータ) 急性毒性(吸入(ミスト))に区分する情報はない。 (成分のデータ: グリス混合液) ラットLD <sub>50</sub> 2.18mg/Lに基づき区分4。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: (製品のデータ) 皮膚刺激性に区分する情報はない。 (成分のデータ: グリス混合液) ウサギを用いた試験において軽度の刺激性を認めている複数の報告に基づき区分3とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: (製品のデータ) 眼刺激性に区分する情報はない。 (成分のデータ: グリス混合液) ウサギを用いた試験において軽度の刺激性と記述されている報告があることから区分2Bとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: (製品のデータ) 呼吸器感作性及び皮膚感作性に区分する情報はない。 (成分のデータ: グリス混合液) モルモットを用いたOECD guideline 406に準拠した複数の試験(maximization testを含む)において、いずれも感作性なしとの結果が得られている。
生殖細胞変異原性	: (製品のデータ) 生殖細胞変異原性に区分する情報はない。 (成分のデータ: グリス混合液) ラットを用いた細胞遺伝学的試験[染色体異常試験](体細胞in vivo 変異原性試験)における異常細胞の増加に加え、職業曝露を受けたヒトの末梢血リンパ球で染色体異常の頻度増加が観察されたこと、及び生殖細胞in vivo遺伝毒性試験の情報がない。
発がん性	: (製品のデータ) 発がん性に区分する情報はない。 (成分のデータ: グリス混合液) 基油: OSHAによる評価: IARCグループ3に分類(ヒトに対しての発がん性について分類できない)、EUによる評価: 発がん性であるとの表示は必要ない。

- 生殖毒性 : (製品のデータ) 生殖毒性に区分する情報はない。
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : (製品のデータ) 各種特定臓器への単回ばく露に区分する情報はない。  
 : (成分のデータ: グリース混合液) ラットに吸入ばく露した試験により、肺に肉眼的、病理組織学的な急性変化(詳細不明)が用量依存的(1.51~5.05mg/L)に見られたとの記述に基づく。  
 (成分のデータ: プロパン) ACGIHの人への影響として麻酔作用を示すとの記述がある。  
 (成分のデータ: n-ブタン) ACGIH及び産衛学会勧告の人において高濃度吸入で麻酔作用または中枢神経抑制を示すとの記述がある。
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : (製品のデータ) 各種特定臓器への反復ばく露に区分する情報はない。  
 (成分のデータ: グリース混合液) 長年にわたり鉱油、あるいはそのミストのばく露を受けた人で肺繊維症、脂肪肺炎、肺の脂肪肉芽腫が報告され、また、疫学調査において切削油への職業ばく露により重度の毛嚢炎の発生が報告されていることに基づく。
- 吸引性呼吸器有害性 : (製品のデータ) 吸引性呼吸器有害性に区分する情報はない。

## 12. 環境影響情報

- 生態毒性 : 水生環境有害性に区分する情報はない。
- 残留性・分解性 : 情報なし
- 生体蓄積性 : 情報なし
- 土壌中の移動性 : 情報なし
- オゾン層への有害性 : 情報なし
- 他の有害影響 : 情報なし
- 環境基準 : 情報なし

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または知事等の許可を受けた処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。  
 投棄禁止。  
 本品を廃棄する際は、中身を使い切った事を確認した後、各自治体にて定める方法により廃棄する。
- 汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

- 海上規制情報 : IMOの規定に従う。
- UN No. : 1950
- Proper Shipping Name : AEROSOLS, FLAMMABLE
- Class : 2.1
- Sub Risk : -
- Packing Group : -
- Marine Pollutant : Not applicable

### 航空規制情報

- : ICAO/IATAの規定に従う。
- UN No. : 1950
- Proper Shipping Name : AEROSOLS, FLAMMABLE

Class	: 2.1
Sub Risk	: -
Packing Group	: -
国内規制	
陸上	: 消防法 危険物
容器	: 危険物の規制に関する規則別表第3の2
容器表示	: 一 危険物の品名 : 第二石油類(非水溶性)、危険等級Ⅲ、潤滑油 二 数量 三 火気厳禁 1) 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬すること。 2) 指定数量以上の危険物を車輦で運搬する場合は、総務省令で定めるところにより、当該車輦に標識を掲げること。またこの場合、当該危険物に該当する消火設備を備えること。運搬時の積み重ね高さ3m以下とする。 3) 第一類及び第六類の危険物及び高圧ガスを混載しないこと。
海上	: 高圧ガス、引火性エアゾール、引火性液体類
航空	: 高圧ガス、引火性エアゾール、引火性液体
特別の安全対策	: 危険物は当該危険物が転落し、または危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 危険物または危険物を収納した容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等、災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、最寄の消防機関その他の関係機関に通報すること。 輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積込、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	: 通知対象物
化学物質排出管理促進法(PRTR法)	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 第四類第二石油類(非水溶性)危険等級Ⅲ
危険物船舶運送及び貯蔵規則	: IMDGコード class 2.1(UN No.1950)
高圧ガス保安法	: 適用除外(液化ガス・可燃性ガス)
水質汚濁防止法	: 油分排出規制
海洋汚染防止法	: 油分排出規制(原則禁止)
下水道法	: 鉱油類排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 産業廃棄物規制(拡散、排出の禁止)

## 16. その他の情報

引用文献等	: 1) 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告(OELs) 2) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices. ACGIH 3) 原材料SDS
-------	--



- (1) 危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。
- (2) この安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の手配を対象としたものです。
- (3) 本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- (4) ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証もするものではありません。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。